
第 64 回 「駅々御本陣御間取絵図」

松江市史料編纂課では松江市史編纂のため、関係史料の収集・整理・保存に努めています。先般、所蔵者のご理解とご協力により、「米村家文書」をご寄贈いただきました。現在、目録作成等、整理・保存作業を進めています。

米村家は、「列士録」によると元祖恵左衛門が安永4年(1775)7月に新番組に取り立てられ、後、天明2年(1782)12月、御譜代士に取り立てられています。以後、二代伴兵衛から六代金之助の慶応4年(1868)8月まで記載があります。元祖恵左衛門の養曾祖父は上総姉崎、信濃松本へ、その後、松江藩主となった直政に従い、松江へ来ています。

この文書群の中に「駅々御本陣御間取絵図」という縦27.3cm、横20.3cm、42丁の冊子がありました。

「間取絵図」は松江藩主が松江を出発して、江戸赤坂館へ到着するまでに休憩・宿泊する沿線の本陣の間取図を集めたものです。残念ながら、書かれた年代や著者の記載は無く、見開きに二枚の間取り図が書かれています。それぞれに地名、宿主が記されていますが、無記名のものもありました。

参勤交代については、旅程を記した道中記、道中絵図、沿線の景勝・産物等を藩士が書き留めた日記類等のほか、沿線各地で休憩・宿泊する宿所にも記録・文書等、様々な史料が残されていると思われます。

この屋敷図に収録されている本陣の家々にも保存されている古文書類や、個別の屋敷図も残されていると思われます。当主の名前等から年代のわかる史料が見つかり、名前のない図についても特定できるのではないかと思います。興味深い史料です。

そこで、先ほどの旅程を記した道中記「安永大成道中記」の流れと比べてみました。

「安永大成道中記」の東海道経路で記された部分と地名はだいたい重なり、宿主の名も同名のものがありました。

※「駅々御本陣御間取絵図」駅名・宿主リスト を参照して下さい

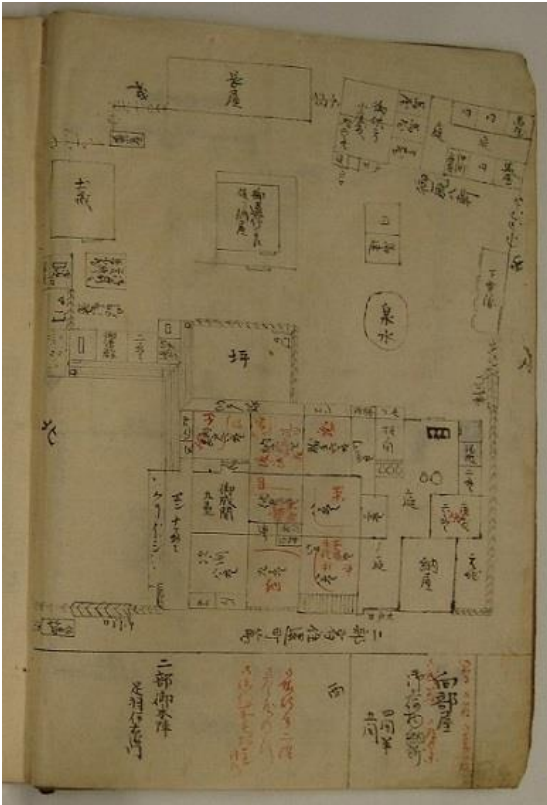
また、本陣の宿主は地域の中心的な存在の家で、「二部足羽家」、「新庄佐藤家」等、現在も屋敷が残っている家もあります。(参考文献：『歴史の道調査報告書山陰道 I』島根県教育委員会、1995)

二部(鳥取県伯耆町)の足羽家の間取りは、往還からすぐに御門口があり、庭から藩主用と思われる「御成間」へ続きます。床の間付きの「御成間」九畳、「御次間」八畳、「縁側」十畳、庭に面してその奥に湯殿と雪隠の文字が見えます。ほかに「茶」と朱書された部屋があり、台所や別の湯殿と雪隠、周りに御供の部屋、武具や道具を入れる納戸、御厩等があります。庭の真ん中には泉水もあり、「御通行ノ節仮り納屋」と書かれた場所もありました。

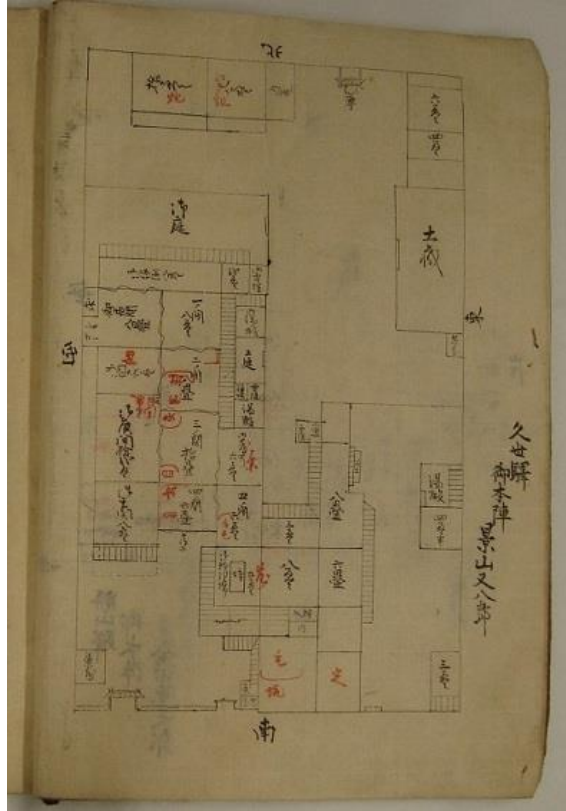
本陣宿の史料調査としては、久世景山家文書(岡山県真庭市)について、松江市史編纂のため、執筆される先生方が調査され、雲州関係の「御用留」等、関係の史料が確認されています。

平成28年3月に刊行した『松江市史史料編近世IV』五章一節「街道と宿駅」(p503～)に、下記の史料が掲載されています。例に挙げた史料は藩主帰国の行程等のお触れです。ほかにも「本陣宿の修復につき借銀願い」等、長年本陣宿を勤めている家の史料であることがわかるもの等があります。

二部本陣間取図



久世本陣間取図



嘉永二年正月（1849）少将殿帰国につき行程等書上一件

（表紙）「嘉永二己酉年正月ヨリ雲州様御用留 久世駐御本陣」

（前略）

御先触之写し

一筆申入候、少将殿国許江之御暇被仰出候得ハ、来ル二十日より同二十九日迄之内江戸表被致発駕度含ニ付、道中泊休去秋相触置、各承知之事ニ候処、故障之義有之故発駕被差延、来月十六日より同二十五日迄之内被致発駕度含ニ候、依而泊休左之通相極候、故障之義無之候ハ、各右名之下ニ印形候而此飛脚之者へ御渡し可給候、尤委曲飛脚之者へ申含候、且又、発駕四五日前関札為持可差出候、恐々謹言

四月十一日和多田奥八書判

品川休 戸塚泊 大磯休 小田原泊 箱根休 三島泊 吉原休 由比泊
 八尻休 府中泊 岡部休 島田泊 金谷休 袋井泊 浜松休 舞坂泊
 新居休 吉田泊 御油休 岡崎泊 池鯉鮒休 宮泊 左夜休 桑名泊
 四ヶ市休 亀山泊 土山休 水口泊 石部休 草津泊 大津休 伏見泊
 芥川休 郡山泊 昆陽野休 西宮泊 兵庫休 大蔵谷泊 大久保休 加古川泊
 御着休 鬻崎泊 千本休 三ヶ月泊 佐用休勝間田泊（土居） 勝間田泊
 院庄休 久世泊（五月十一より二十日迄） 勝山休 美甘泊 板井原休 根雨泊
 二部泊 溝口休

一筆申入候、今般少将殿為帰国来ル二十三日江戸表被致発駕候、依之関札為持差出候間、駅付之通夫々江御受取置可給候、尤御受取候ハ、各名之下ニ被致印形才料之者へ御渡し可給候、恐々謹言

（嘉永二年）閏四月十八日

雲州和多田奥八（「列土録」記四百五十石御帰国御用所御用向兼勤）
（久世駅御本陣）景山又八郎殿
（後略）

（平成 29 年 4 月 14 日／史料編纂課：北村久美子）